ふるさと上越ネットワーク会報

NO.18 2004.11

会長挨拶

Jネット会長　太田四郎（本町五丁目出身）

まずもって、新潟県中越地震の被災地の皆様方に心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

この八月にはきびしい中東情勢のなか、アテネ・オリンピックが開催され、日本選手団の大活躍により、多くの感動の裡に無事終了しましたが、夏から秋にかけて大変な異常気象に見舞われました。全国的に猛烈な暑さが連日のように続き、また六月中旬から十月二十三号台風までに十個の大型台風が上陸し、七月には三条市周辺など集中豪雨による水害、そして十月二十三日には阪神大震災を上回る強さの新潟県中越地震が発生し、いずれも甚大な被害をもたらしました。被害にあわれた方々のご心労、ご苦労は察するに余り有るものがあります。

地球全体の気象バランスが地球温暖化によって崩れ、世界中で異常気象が起きていると云われておりますが、環境保全の努力と併せ、万一の場合に備えて、日頃の防災体制の整備が大切であることを痛切に感じている次第です。

さて、ふるさと上越では来年一月一日を期して十四市町村が合併して新しい上越市が生まれます。合併協議が難航している地域が多いなか、全国で一番数の多い市町村合併をまとめられたことはご関係の皆様方のご苦労や地域の協調性の賜物と心より敬意を表するとともに、このようなふるさとを誇りに存じております。

山あり海あり町あり田園ありのそれぞれの地域の良さを発揮して活力あるまちづくりを立派に成し遂げられるよう期待しております。

ふるさと上越では豪雪、雪崩、融雪時出水や地震など特有な災害がありますし、また古くは江戸時代にほぼ百年ごとに三回の大地震があったと聞いております。広大な市域で万一に備えて災害に強いまちづくりや危機管理、災害対策体制を整備することは中々難しいことと思いますが、安心・安全なくらしの為に一番大事なことと存じます。

今回の合併はJネットにとっても新しい地域の会員を迎え、一層の発展をとげる機会でもあります。

会員の皆様方には新規会員の御紹介などと併せてふるさと上越の新しいまちづくりについてのご意見、ご提言など各地から発信していただくようよろしくご協力の程お願い申し上げます。

市長挨拶

上越市長　木浦正幸

Jネットの皆さん、こんにちは。

十月二十三日発生の新潟県中越地震には多大なご心配をおかけしたとともに、早速のお見舞い等をいただき、心からお礼申し上げます。幸い、当市には大きな被害はなかったことから、市民の安全確保を最優先しつつも、多くの市民の皆さんや職員の協力を得て、長岡市や十日町市等への災害支援を行ってきました。

さて、Jネットが発足して八年目になりますが、日頃から当市へのご支援に対し深く感謝申し上げます。

来年一月一日の市町村合併が目前に迫ってきましたが、十四市町村合併による新上越市の誕生により、人口は現在の約一・五倍の二十一万人を超えるとともに、特に市域はこれまでの約四倍の九七〇平方キロメートルという、全国的にも大きな面積を有する都市となります。

このようにまちの姿が大きく変わろうとしても、まちづくりの真の目的がそこに暮らす人々の幸せ創造であることに変わりはなく、これからも安全・安心で快適に暮らすことができるとともに、持続的に発展していくまちづくりを行っていきたいと考えています。

Jネットのみなさんからは、これまでも桜の木や棚田のオーナー事業を通じ、地域の景観形成や地場産業の振興のほか、文化講演会の開催による地域文化の発信等にご尽力いただいておりますが、今年は新規に「Jネットふるさと大使」事業を始められ、これまで五十八人の大使からそれぞれお住まいの地域で上越市のさまざまな魅力のPRにご活躍いただいています。

多くの方たちのご努力で築き上げられてきた優れた歴史や文化、そして都市機能を今後とも高めながら、次代につなげていきたいと考えていますので、これからもJネットの皆さんの格別のご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

おいしい米を食べましょう

上越市農林水産課長　野口和広

Jネットの皆様お変わりありませんか。

恵の秋、稲の刈り取りも終わり秋野菜の成長を楽しんでいた去る十月二十三日の夕方、新潟県中越地方を震源とする地震に見舞われました。中越地方では家屋の倒壊や地滑り等被害は甚大で、被災された皆さんの避難所生活は、心労に寒さも加わり大変厳しいものとなっています。心からお見舞い申し上げます。

私どもの市も震度六弱を観測しましたが、幸いにも被害はほとんど無く、通常の生活を営んでいますが、震源が当市であった場合を考えるとゾーッとします。

さて、今年は例年になく多くの台風が日本に上陸しました。各地に爪あとを残し農作物にも多くの被害をもたらしました。このような状況の中、今年の水稲は新潟県全体では作況指数が九二と昨年に引き続き不作となりましたが、上越地域では九七とほぼ平年作に近い数値となっています。

一方、里山に囲まれた魚沼地方は一〇一と良い結果が出されましたが、このたびの地震で農地に大きな被害があり、来年の作付けがうまくできるか心配しているところです。

「適地適作」この言葉は自然相手の農業に当てはまるもので、頸城平野はご存知のとおり、西は妙高山から南葉山を経て海岸まで、東は関田峠から米山まで緑豊かな山岳、里山に囲まれています。この地形は北西の強風に対する自然の防護壁となり、合わせて保温効果もあります。そして何よりの恵であるミネラルを多く含んだ冷たい水を安定的に供給してくれることから、上越地域では美味しい米を生産できるものです。稲作農家の方々を含め、山の緑の恩恵を受け米を生産できることを改めて意識したいものです。

ところで、日本の米の消費量は、戦後、食生活が欧米化したことにより、年々減少しています。現在では一人当り年間六十kg、金額に換算して約三万円から四万円で、一日当たり一一〇円、食費に占める米代は僅かとなっています。そうした中、私ども米作地帯では米の消費拡大に向け「売れる米づくり」を進めています。ごく身近なところでは、学校給食が週五日のうち三・五食を米飯給食にしています。一般的に給食米は県学校給食会から供給される統一米であり、新潟県産米ではありますがブレンド米で、上越産ではありません。

そこで今年から、地元の認定農業者の皆さんの協力を得て、学校給食米として地元で取れたコシヒカリを低価格で供給して頂くシステムを導入しています。認定農業者の皆さんは、自分たちの作った米で子供たちを育てたいという意識が高く、以前から寄付活動を続けられていましたので、今回のシステムづくりに積極的に参加していただいています。

そして、Jネットからも提言があって来年の四月からは、環境に配慮し学校給食を「無洗米」にして供給いたします。

子どもの頃からご飯を食べる習慣を身に付け、それが今後の米消費の拡大に繋がれば大変嬉しいことです。

上越市の市町村合併について

上越市企画部合併推進課

上越市では、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町の十三町村と共に来年一月一日の市町村合併に向けて取り組んできました。去る十月二十六日には、十四市町村の廃置分合（合併）についての総務大臣告示も終了し、来年一月一日の十四市町村による合併が正式に決まったところです。

このたびの市町村合併は、十四市町村が一つにまとまり、あらゆる資源や特性などをいかしながら、これらを更に伸ばし、広げ、つなげていくことにより「新しい価値」をつくり出していく機会としてとらえています。このため、地域の様々な個性に光を当て「新しい価値」をつくり出しながら、新たな時代の環境変化に柔軟に対応し、乗り越える力を持つまちの実現を目指していきます。

合併する１４市町村

さて、来年一月一日に誕生する新しい上越市は、現在と比較して、人口が一・六倍の約二十一万人、面積が三・九倍の約九七二平方キロメートルと、その規模はかなり大きくなります。

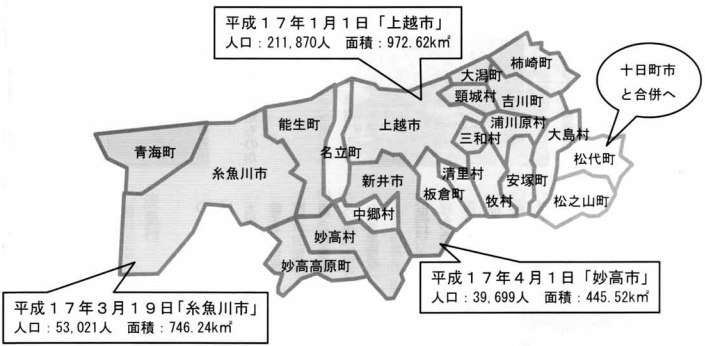
そこで、合併後は旧町村ごとに「地域自治区」を設けることが十四市町村で組織する「上越市における地域自治組織の設置に関する検討会」において合意されました。

この地域自治区を設置することにより、上越市と合併する十三町村の住所の表示は、市名の後ろに「大潟区」「頸城区」というような地域自治区の名称が付されることになります。

このたびの市町村合併は、将来の上越地域、ひいては国全体の姿や形を決めるといっても過言ではない極めて大きな事柄です。上越市では、地域の力を一層高め、地域全体の持続的な発展につながるよりよい合併となるよう、市民の皆さんだけでなく、Ｊネット会員の皆さんにとっても、誇りと愛着をお持ちになれるようなまちづくりに向け、引き続き取り組んでいきます。

合併協定書に調印

上越地域の市町村合併の状況



合併する14市町村の主要指標

市町村名	人口 人	世帯数 世帯	面積 km^2	歳入総額 千円	歳出総額 千円	議員定数 人	全職員数 人
上越市	134,751	45,891	249.24	52,927,310	51,689,556	30	1,141
安塚町	3,733	1,230	70.23	3,954,720	3,842,023	12	77
浦川原村	4,202	1,193	50.64	3,236,705	3,037,626	12	92
大島村	2,480	749	71.64	2,754,796	2,660,315	10	70
牧村	2,991	927	61.35	2,634,996	2,547,798	14	90
柿崎町	12,116	3,576	85.39	4,762,258	4,625,311	18	161
大潟町	10,861	3,097	16.32	3,938,514	3,680,686	18	128
頸城村	9,538	2,572	38.30	4,017,165	3,906,133	18	130
吉川町	5,516	1,507	76.61	4,417,449	4,213,962	16	109
中郷村	5,259	1,491	43.55	3,091,567	3,044,959	14	89
板倉町	7,534	2,029	66.51	4,955,856	4,692,142	16	119
清里村	3,217	830	37.54	2,908,546	2,633,128	12	68
三和村	6,284	1,628	39.36	4,359,083	4,098,137	18	98
名立町	3,388	934	65.94	3,313,336	3,203,671	14	67
合計	211,870	67,654	972.62	101,272,301	97,875,447	222	2,439

新しい仲間（町村）紹介

合併により新しく上越市に編入される十三町村のみどころを紹介します。『広報じょうえつ』に連載されたものから抜粋して紹介です。

安塚町

○雪だるま高原キャンプ、スキー、温泉を楽しめる観光名所です。

○花のまち「やすづか」
棚田を利用した花しょうぶと柳葉ヒマワリなど、花で飾る町です。

浦川原村

○虫川の大スギ
樹高三十メートル、周囲十・六メートルの「千年杉」と呼ばれる国指定の天然記念物で樹齢千二百年の大樹。

○霧ヶ浜温泉「ゆあみ」
大浴場、アスレチック広場など充実した温泉施設。

大島村

○ほたるまつり
保倉川沿いの「ほたるライン」は幻想的な世界へと導いてくれます。

○庄屋の家
ブナ林やかや葺屋根の民家が数多く残る「あさひの里」は懐かしい山里の風情です。庄屋の家はこんな自然の中にあります。

牧村

○宮口古墳群
昭和五十年に飯田川扇状地から発掘された群集墳は国指定史跡公園であり、併設の歴史民族資料館には農村文化を基調にした遺跡が展示されています。

○弘法清水
飯田川流域の小さな集落にかれる事の無い「弘法清水」があります。弘法大師が湧き水の無いこの地を哀れんで、清水を湧き出させてくれたという伝説があります。

柿崎町

○ハマナスふれあいセンター
ハマナスが咲く海岸にある日帰り温泉施設

○柿崎川ダム
九市町村に水道用水を供給する多目的ダム。ダム堤からは妙高三山や日本海に沈む夕日が見られます。また周辺の七千本のハマナスと桜が楽しめます。

大潟町

○健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館
温水プール、露天風呂、薬草湯など充実した施設

○大潟水と森公園
砂丘後背地に発達した「潟」を生かした自然、歴史、文化を学べる広域公園です。

頚城村

○大池まつり
県景勝百選の一つ「大池いこいの森」の周囲にはアウトドアーライフを満喫できる施設が盛りたくさんあります。

○坂口記念館
酒の博士故坂口謹一郎先生を紹

介する記念館。豪農の家屋を移築した「楽縫庵」と雪椿を集めた庭園も好評です。

吉川町

○越後よしかわ酒まつり
杜氏の里を紹介するお祭りで、一番人気「全国二〇〇銘酒きき酒会」など日本酒にまつわる多彩なイベントが行われます。

○スカイスポーツ
山岳信仰の尾神岳がパラグライダーのメッカとして有名です。

中郷村

○松ヶ峯温泉と桜ヶ池
温泉周辺には三千本の桜が植栽され名所となっています。春先桜ヶ池のほとりに立つとゴルフ場の緑のじゅうたん、桜のピンク、残雪の白が妙高山を背景に絶妙なコントラストをかもし出してくれます。

○泉縄文公園
八千年から一万年前の縄文草創期遺跡の密集地で、村のシンボルとなっています。

板倉町

○光ヶ原高原
長野県との県境の黒倉山のふもと標高七〇〇から一、〇〇〇メートルに位置し、頚城平野と遠く佐渡や能登を眺望できます。ミズバショウの群生地や樹齢数百年を越えるブナの原生林、たくさんの草花、昆虫、鳥類が生息する自然の宝庫です。

○やすらぎ荘
異なる泉質を持つ飯田温泉と大峯温泉を楽しめます。

清里村

○櫛池の隕石
大正九年一条の光とともに落下してきました。県の天然記念物

○坊ヶ池
山の頂きにある深さ三十三メートルの県内最深の自然湧水池です。龍の化身坊太郎が棲む龍神伝説が伝えられています。ほとりには宇宙の神秘を体験できる「星のふるさと館」があります。

三和村

○米（まい）パラダイス
米と酒を紹介するテーマパーク。地酒の試飲できる「米と酒の謎蔵、高田平野と妙高連山を一望できる「謎蔵展望台」、ご飯レストラン「味の謎蔵」「ホテル米本陣」があります。

○谷内（やち）池
オニバスの群生、希少な昆虫や水生植物の自生地であり、周囲の森にはたくさんの野鳥や動物の生息する自然あふれる場所です。

名立町

○交流拠点施設　「うみてらす名立」
食べる・くつろぐ・遊ぶ・とまるが一つになった複合施設

○シーサイドパーク名立
晴れた日には日本海越しに佐渡や能登半島を見渡せます。

上越の産物

謙信公「義の塩」

上越市産業環境部観光課長　西山工三

郷土の名将、上杉謙信公が今川・北条の塩止めで苦しむ武田信玄に塩を送ったという逸話が「敵に塩を送る」という故事につながっているのは有名です。

謙信公「義の塩」の開発は、謙信公の威風・息吹を感じて、遺徳を偲ぶとともに、歴史的風土を再認識する機会をつくり、培われた地域の資源・特性を活かしながら、当市の特産品・土産品の開発・商品化を試みることを目的に、上越観光コンベンション協会と谷浜観光協会、上越市が協力して、平成十三年度から事業を進めてまいりました。

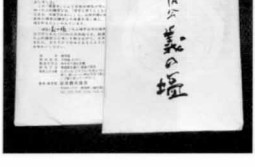
平成十三・十四年度は、特産品づくりの組織づくり、試作品の作成、謙信公祭で献上塩としての活用、商品化・事業化の検討、塩づくり体験イベント、先進地視察などを行いました。また平成十五年度は、NHKBS2『おーいニッポンとことん新潟』へも出演し、謙信公「義の塩」を全国へPRするとともに消費者及び販売者に対して試供品を配付し商品化のモニター調査を実施し、その結果を踏まえて検討委員会を開催しました。

委員の皆さんからは、謙信公「義の塩」を商品化するための販売ターゲットについては、大手流通を介した一般消費者ではなく、「特産品・土産品としての観光客」「原材料としての食品メーカー（味噌菓子等）」とするのがよいのではないかという提言などをいただきました。

その提言を裏づけるように、今年度は、「義の塩」を使った塩ラーメンも販売され、「今までの塩ラーメンと食べ比べると、まろやかさがあり飽きのこない仕上がりになっている」とラーメン店店長は話しておられます。

その他にも、「義の塩」を使った味噌や饅頭、羊羹にも使用されておりますので、皆さんも是非一度ご賞味ください。

しかしながら、一kgの製造原価が二、〇〇〇円近くで、全経費に占める人件費・燃料費の割合が高く、大幅な低減は不可能に近いので、今後は、来年一月の合併を見据えて、谷浜地域のみならず、上越市の認知度を塩づくり体験イベントや地産地消の推奨により、さらに誘客を進めてまいりますので、ご支援賜りますようお願いいたします。



上越の産物

地産地消で上越の郷土食

NPO法人「食の工房ネットワーク」理事長　小川雅子

Jネットの皆様には、いつも「食の工房ネットワーク」をご利用くださって、ありがとうございます。私たちの活動を紹介させていただいて、より一層のご支援とご指導をお願いできれば嬉しいと思っています。

上越市では、国の法律と同時に「食料・農業・農村基本条例」が作られました。条例では上越市の自給率をいかに上げるかが大きなウエートを占めています。そして、農業を維持発展させるための条例を持ったことで、農業は「食べ物作り」だけでなく、自然環境やその土地の固有の景観をつくり、文化をつくり守って、「農業を大切にする」気風がより一層増すことを願っています。

食の工房ネットワークは、このような背景で市から正善寺工房の施設を移管されて活動しています。食の安全・安心と地域の農業が衰退していくことから、地産地消やスローフードを進めることも大切なテーマの一つであり、「食べ物選びは命の問題」を合言葉にしています。そして、食の工房では市民全体に毎日の食事の見直し、とりわけテーブルの上の食材に関心をもち、安全・安心を心掛けて食べ物作りに取組む人や、田畑を渡る涼風さえも感じていただきたいと思っています。

そのために食の工房では、上越の郷土食の体験教室を年間一〇〇回以上開いています。コンニャク作り、笹寿司、笹だんご、蕎麦打ちなど季節の行事食の他に、梅干し、味噌、たくあん漬けなどの保存食作りです。小学生から大人まで様々な人に、体験を通して上越の食文化の豊かさを感じてもらっています。味も香りも地元でしか感じられない体験は、毎日の食材選びに生かされると思っています。この地で生まれた食材には無駄がありません。八つ頭の茎は「いもがら」に、大根葉は干し菜にして冬に備えます。何気ないちょっとした「こつ」も達人から教われます。地産地消は、環境に負担をかけない食生活であって知恵のかたまりです。

中山間地の活性化のお手伝いもしています。年四回のイベントは竹の子祭り、茗荷祭りのように特産のアピールであり、あじさい祭りは正善寺の景観を堪能するイベントです。郷土芸能の掘り起こしは収穫祭の「天狗の舞」です。農業が生み出した文化を大切にすることと思っています。

その他に「食育」の出前講座も行っています。親から子への伝承が途絶えかけている現代では、手抜きなしで仕事の話や言い伝えなども話していきたいと思っています。

ふるさと交流会で四月にJネット会員の方々が蕎麦打ちと味噌作り体験をされました。先般、そのとき作った味噌をお届けしましたが、ふるさとへの想いや懐かしい味がいっぱい入って満足いただけたでしょうか。

元気な会員

野口春雄顧問ＴＶに出演

東京サロンの常連野口さんは、来春卒寿を迎えられます。

「生涯学習スポーツ」をモットーにして、現役でスキー、テニス、ゴルフをこなしている野口さんにふさわしいフジテレビの番組「答えて頂戴」「元気爆発シルバー世代：」で八月三日放映されました。

中学時代に篭球（バスケット）で全国八位になったことや、八十一歳の時府中市主催の長野県野辺山スキー大会で、高低さ一〇〇メートル、距離六〇〇メートル、最大傾斜度三二度、旗門三二のコースで完走し、特別賞を授与されたこと。またこの年に冒険スキーヤー三浦雄一郎さんと金谷山の白旗山を並んで滑降したことなどなど。特にテニスでは高田の同級生山田秀夫さんとのペアーで、東京都主催の「生き生き高齢者テニス大会」に連続二十回出場の記録更新中であることなどが面白く紹介され、最後にテニスの実演で元気なプレー姿を見せてくれました。

（運営委員　岡村記）

元気な会員

気さくな小林直太さん

大正十二年生まれの小林直太先生は、東京大学理学部同大学院を卒業後、中央大学理工学部の教授として長く学生を教育され、平成六年に退職されました。同大学の名誉教授であり、理学博士でもあります。専門は固体地球物理、弾性波動、物理探査、地震工学、環境工学など多岐に渡ります。中でも弾性波動では大きな業績をあげられ、地盤探査におけるSH波発生装置は世界で広く用いられています。これらの業績により平成十年に勲三等瑞宝章が授与されました。また、先生は郷土の偉人、小林百哺の玄孫（やしゃご）（孫の孫）にあたります。

大変な大先生なのですが、人柄円満、ユーモアに富み、女性にやさしく、興に乗ると懐かしい軍歌や高田高女（現・北城高校）の校歌を気軽に歌う先生です。

Jネットの東京サロンでは野口春雄先輩と並ぶキーパーソンの一人です。

先生、いつまでもお元気で、後輩をご指導ください。

（運営委員　和久井記）

元気な会員

チャーミングな傘寿
早川美津江さん

Jネット東京サロンには毎月、二十名以上の会員の皆さんが参加されていますが、その中でも特に「元気な人」ということで全国の皆さんにご紹介したい会員がおいでになります。

お名前は早川美津江さん。大正十三年、昔の春日村大字藤巻生まれの八十才。古川フジ校長時代の家政女学校ご出身。昭和二十三年ご結婚と同時に高田を離れ、現在大田区在住五十年以上。町会の役員も歴任され、町会行事には無くてはならない今や町の生き字引的存在とお聞きしています。

Jネット会員番号三八四。平成十一年十二月、故郷の「たら汁」に誘われてJネットサロンに初参加。その時は東京事務所があった日比谷の市政会館まで一人で来れず、娘さんに連れてきて貰ったそうです。その時以来、連続三十四回の参加記録をお持ちですが、よんどころない事情で一度ストップしてしまいました。その後また記録更新に向かって毎月出かけて来ていらっしゃいます。副会長より年間皆勤賞を二度も受けているのは早川女史だけ。参加回数のみならず女史の身のこなしや張りのある話声、ファッションを近くで拝見していると若々しくてチャーミング、実年齢を感じさせない元気〜〜で実に魅力的です。サロン参加者からも驚きと羨望のまなざしを得ております。

サロンでは恒例になっている出席者全員持ち時間二分間のトークタイムがあります。話の内容は各人各様ですが、早川女史はいつも東京新聞の切抜きを持参され、ふるさとと上越と重ね合わせて話題を提供されます。その記事の選び方が又素晴らしく女史らしい視点で物を見ているなぁといつも感心しています。記事を一読した後、女史のお考えを話されるのですが、その時々のタイムリーな話題に参加者は納得し大きな拍手を送っております。今回はどんな話かなと早川女史の順番を楽しみにしている方もおいでになり、サロンでは一番の存在感のある女性でもあります。

また、Jネットの「ふるさと交流観桜会」や「稲刈りなどのイベントにも積極的に参加され、全会員の中で参加率は一番良いお方と思います。早川さんご自身は、サロンに参加することが生活のサイクルの一つになり、楽しみであると言われています。これから冬に向かい寒く悪天候の日もあるでしょうが、そんな時でも少々甲高い声で、「いい子さん　今日も来ちゃったわ」という早川さんの元気なお声が聞けることでしょう。三十四回の連続参加記録を更新するのはやっぱり早川さんご自身でしょう。この一〇月のサロンで二十四回達成です。今年も皆勤賞はゲットですね。

（運営委員　小野塚記）

Jネットと故郷上越

豊橋市　古川泰男（寺町三丁目出身）

十八歳で故郷を出てから東京、神奈川で約三十六年あまりを過ごし、六年前に豊橋に住むようになりました。豊橋市と上越市は本州の背と腹といった位置関係にあります。

当地には知る人もなく寂しい思いでしたが、同じ技術者として懇意にしていた高田高校同期の尾原勝利君が長く名古屋にいて、いろいろ引き回してくれました。やはり名古屋で働いていた、柔道部で共に汗を流した武田茂夫君、小柄ながら韋駄天の池田勝明君の同期生四人で名古屋の夜を楽しみました。同期生間のメールにその時の写真を添付して、四人組の元気さをアピールしたものです。

尾原君からJネット会長の太田さんを紹介され、年一回のJネット東海地区サロンに続けて出席するようになりました。東京からも副会長の松川さんはじめ関係者が足を運んで下さり、毎年盛況な会となっています。

今年は九月四日にJR名古屋駅隣接のマリオットホテルで開催されました。毎回のように思いもしない出会いがあります。小学生の頃、雪道を酢の量り売りのお使いに行かされた近所の酒屋の娘さんとの出会いもその一つです。近くにいながら知ることのなかった人と遠くの地で知り合うことの不思議さが雪国の生活を鮮やかに甦らせてくれました。お豆腐を入れた鍋や醤油瓶を風呂敷に包んで、寒さにかじかむ指を結び目にかけて吹雪の中で家路を急いだのは、まだ小学校の低学年の頃でした。辛いというより懐かしい思い出となっています。

東京で懇意にしていた友人の叔母さんとの語らいは、私もずいぶんお世話になったお医者さん一族の発展の物語でもありました。故郷を遠く離れた地で激動の時代を生き抜かれた満足感に輝く先輩たちの笑顔を拝見することは大きな励ましでした。

時空を超えて故郷を語り合うひと時は、もはや夢の中のような幼い日々の謎が五十年の歳月を隔てて解き明かされる不思議な感動の時です。このような機会を与えてくれるJネットと故郷上越のありがたさをしみじみ感じています。

全国県人会まつりを見て

名古屋市　村山勇二（三和村出身）

九月十一日、十二日に名古屋栄テレビ塔下の名古屋一番の繁華街で行われました。全国から東海地区に来て生活されている方々が主体になっています。各県がブースを持ち各地ふる里の特産品や観光案内をするお祭りです。踊り有り、パフォーマンス有り、見ていて楽しい二日間でした。

新潟県ブースでは

①上越市の推薦特産品で、昨年に続き岩の原ワイナリーの参加を頂きました。岡本重孝広報部長一名様、岩の原ワインの試飲販売です。このワインは口当たりが良く私のお勧め品です。お祭り場でもなかなかの人気でした。私事ですが、昨年このワインでお得意様一件ゲット。

②新井市からは新井地ビールの参加を頂きました。吉沢敦チーフほか一名様。試飲販売も人気が有り、私も一杯頂きました。ビール会社から持参した本数が一本だけ残っただけと聞きました。両社とも遠くからの参加ありがとうございました。来年も懲りずに参加をお願いいたします。

③新潟県産のナシ、リンゴの試食販売。これは大坪満男さん（三和村出身）がフルーツ販売会社を経営されている関係で採算を度外視しての参加でした。これを試食していただくための皮むき、陳列など大勢の県人会の皆様に助けていただきました。また、大坪浩樹様ほか一名様が、三和村役場からわざわざ出席ありがとうございました。

ブース前ではJネットの太田会長をはじめ、東海地区Jネットでいろいろお世話してくださる尾原さん、県人会役員の方々も顔を出して大変賑やかになっていました。やはりお祭りは賑やかでないとだめですからね。

それから、それから新潟県人が忘れてならない佐渡おけさ。この衣装で横井マス子さんが参加してくださいましたが、これも新潟県ブース前では大変な人気でした。

因みに沖縄、九州の方々は元気がありましたね。

Jネット会員様、皆様の健康をお祈りします。

北国街道サミットは如何

三島市　杉臣　武（幸町出身）

私が江戸の五街道に興味を持って東海道を歩き始めたのは一九九一年のことですから、もう十年以上前のことになります。今年四月に奥州道中を歩き終えて漸く完了しました。車万能の時代にテクテク歩くのは余所見には酔狂に映るでしょうが、一度やると病みつきになります。

親父の介護で高田にいた時は気晴らしに北国街道を歩きました。出雲崎から軽井沢の追分までの道中は絶景続きで五街道のどれにも引けを取らない素晴らしい街道でした。残念なことに田舎道を歩いている間同好の士に出会うことは皆無で、折角の観光資源をもったいないことだと痛感した次第です。

出雲崎は言わずと知れた良寛さんの故郷であるとともに日本石油産業のメッカでもあります。鯨波海水浴場や義経伝説の亀割峠を持つ柏崎、米山の眺めと海岸の温泉が素晴らしい柿崎から大潟の街道を進めばわが上越市の縄張りに入ります。ここは戦国のヒーロー謙信公の春日山城という史跡を持ち、桜と蓮、三重櫓にブロンズ像の高田公園があり、スキー発祥の地であります。さらに親鸞上人ゆかりの寺の町でもある。高田からは雪峰妙高を仰ぎ稲穂の波を眺めつつ、スキーと温泉の信越国境へと向かいます。

最近マスコミでスローライフの勧めが説かれていますが、そんな時流をうまく利用して北国街道に連なる旧宿場町の観光活性化が図れないものでしょうか。隣県長野のことはひとまず置いて県内だけでも共同して道路と標識の整備やガイドマップの作成、イベントの企画などで全国に北国街道の魅力を発信する。個々の自治体が作ったPRパンフにはそれぞれに素晴らしい物がありますが、市役所や町役場へ行かないと手に入らないのでは客寄せの効果に乏しい。また徒然道草でも書きましたが、これからの観光には近隣アジア諸国からの客寄せが重要になります。その点で成功した高山市の例も学ぶ必要があるでしょう。折角の北国街道をうまく活用しませんか。

さしあたり北国街道サミットを開催して智恵を出し合うなんて如何でしょう。二十一世紀の謙信公出でよと願っています。

（CM）私の北国街道旅日記をホームページに載せています。

http://homepage1.nifty.com/sugiomi/index.html

「旧街道は面白い」

高田のこと、NPOのこと

鯖江市　大森　宏（南本町一丁目出身）

現在、市町村合併や、道州制とかで世の中賑やかです。昔奈良時代、「越の国」というのがあり私の住む福井県と新潟県（他に富山、石川）が同一の行政区域だったことをご存知ですか。その名残でしょうか、今年福井商業が優勝した高校野球の北信越大会があります。

前から地図を見て、越後、越中と続き越中と越前の間に加賀のあることに疑問を持っていました。この間武生市の語り部ボランティアさんの説明でその謎が解けたのです。もともと加賀は越前の国の一部だったのだそうです。しかし、越前の国府武生から遠く国司が廻りきれないので平安初期の弘仁年間に越前から分離したのだそうですよ。それから、高田藩は江戸時代の初めには越前藩の「支藩」だったらしいです。有名な松平忠直卿の妻である高田姫が子息の越後中将と共に越前藩から高田藩へ転封されたのがその理由のようです。高田と福井は、私が四十年前に当地へ都落ちする前から交流があったのですね。

今私はボランティアらしき事をやろうとしています。これまで四十数年零細企業でいつも利益、資金繰り、生産性、コストダウンなどで必死でした。ですからリタイア後はもうそんなことは考えたくないと願っていました。ある時ノンプロフィット（非営利活動）という文字を目にしてこれだと確信したのです。そしてリタイア後には、NPOをつくりたいなと思いました。そのためには準備が必要と五十八歳の時に仏教大学の社会福祉学科（通信）に三年編入しました。二年間で必ず卒業し、社会福祉士の資格も取得すると覚悟を決めました。高校、大学時代の分までこの時には勉強しました。

私達のNPOでは、たいした「事業」はやっていません。福祉相談、友愛訪問、傾聴ボランティア、成年後見人の申立、受任、児童文庫を少しおこなっているくらいです。たまにビジネスマン根性が沸いてきて、大きな「収益事業」をやりたいなと思う時もあります。その時には、「ビジネスマン根性を捨てろ」、「これでいいんだ」と反省しきりです。

そんなわけで、日本社会福祉士会福井県支部に所属しています。多くのメンバーは自治体の福祉部門の職員、県市町村の社会福祉協議会の職員、特別養護老人ホームなどの介護保険施設の職員達です。彼らは年齢も若く福祉のプロで、学ぶべきことばかりです。しかし彼らに私のアマチュアの考えも主張せねばと孤軍奮闘しています。具体的に申しますと、彼らと反対に近い視点――徹底した利用者、当事者、ご本人の立場から発言、行動しています。なぜなら、もうじきに私はサービスを受けるようになるのですから、みんなが欲しいサービスを代弁できたらと思っています。

7・18福井豪雨災害のときには、郷里の皆様からお見舞の電話や、お手紙をいただき本当にありがとうございました。さいわいに、被災しませんでした。福井県には、水害復旧のために約七〇、〇〇〇人のボランティアが来られました。およばずながら、老兵の私も、参加しました。家を流された被災者の方々の「有難う」、「ご苦労さん」の言葉が今も耳に残っています。

写真は、今年八月四日に私達のユカチャング文庫へ講談社の巡回文庫「おはなし隊」が来た時のものです。

「おまんた　元気かね！」

杉並区　勝島敏明（直江津中島区出身）

現在、私は「直江津高校同窓会関東支部」の支部長を仰せつかっている。第七代目の支部長いうことらしい。前支部長の水嶋晃氏は過去三十年の長きにわたって同会を引っ張ってこられた超ベテランである。浅学非才な私には荷の重い役割で心もとないというのが実感ではあったが、主たる職場を定年退職した現在お世話になった皆様への恩返しのつもりでお引き受けした次第である。

Jネットの会員の皆様に我々の会の実状を知っていただくのも意義あることかと思い駄文をしたためることにした。

直江津高校同窓会には本部といくつかの支部がある。関東支部はその中でも中核としての役割を担っている。東京を中心として関東に居住する同窓生を会員としている。現在三千人を超える規模である。

主な活動としては、年一回の総会の開催と年二回のゴルフ会で、もっぱら会員相互の親睦を図っている。

直江津高校同窓会は昭和二十五年に発足したと聞いている。農商高校（男子校）と女学校が昭和二十五年四月に合併して、普通課程、商業課程、農業課程、家庭課程の四課程をもつ総合高校として発足した経緯がある。また、定時制、柿崎分校、三和分校もあり、極めて複雑なものとなった。したがって、同窓会会員同志間での一体感と言う点については、なかなか理想的に行かないという難しさを内在している。その点、高田高校や北城高校とは大きく異なるわけで、同窓会の運営にそれなりの難しさを持っているわけである。

現在は卒業年度ごとに幹事を置き、会員の横の連絡を蜜にすることにより参加意識と一体感の確保に努めている。役員会の合意に基づき、「同窓会だより」の発行や総会準備等役員の共同作業により一体感、活性化に務めているところである。

役員会の都度の夕食会は、同窓生の営んでいる新潟地酒の店で行われ世代を超えて楽しい会話をかわし合っている。ある役員いわく、「直江津高校の先輩の中で、後輩が何を言っても、えばったり怒ったりする人は誰もいない。こんな雰囲気が、わが支部の現状である。

高田高校同窓会のような規模にはいたらないが、小粒でも中身の濃い、親密感の高い支部運営をしたいと努力しているところです。来る十二月五日の今年度の総会に百人を超える（高田高校の五百人超にはとても及びませんが…）会員の参加を得て盛会となることを願っているところです。

標題は支部長としての「キャッチフレード」です。

ふるさとの震災現場をみて

三鷹市　永島セツ（佐内出身）

十月二十三日に中越地震が起き、ふるさと上越も被災した。

地震発生日の前日に上越から妹夫婦が上京、三鷹の我が家に泊まり在京の子供たちを訪ねる、ということでの旅であった。

二十三日の夕刻六時に吉祥寺の待ち合わせ場所に行くと、姪が携帯電話で「上越や長岡が大地震で大変なことになった。」と知らせてきた。

上越新幹線が脱線したこと、ほくほく線や信越線も不通ということに一同呆然とし、直江津や長岡の親族の安否を確認しようと懸命に連絡したが、当日は電話も不通であった。翌日になってやっと連絡がとれ、全員無事であることがわかり、安堵した。

十月二十五日にローカル線を乗り継いで私も妹夫婦とともに直江津を訪れ、被災の現場をみてきた。上越の友人たちの安否を確認、全員無事とのことであったので、当日ひとまず帰京した。

十月二十六日のニュースで不通だった越後線が二十六日に午後三時過ぎに開通の見込みと報じた。長岡へのルートが開けたので、救援物資をザックに詰めて午後一時過ぎに三鷹を出発した。長野新幹線、信越線、越後線、弥彦線、信越線と乗り継いで長岡に着いたのが午後十時だった。

弟の家にたどり着いて長岡の被災状況の惨状を見て、自然の摂理を甘く見た「人災」ではなかったかと思った。

電気、ガス、水のライフラインは全て絶たれ、寒空のしたでひたすら救援を待っている多くの被災者へのサポートを今こそ何にも優先して国を挙げてなすべきことではないかと痛感した。

帰京の際に越後線で良寛にゆかりの駅通過したとき、「死ぬときは、死ぬがよろし」と言った良寛の言葉を肝に銘じ一日一日を大切に生きようと思った。

阪神淡路に震災よりも甚大な被害をもたらしたこのたびの中越地震の現場をみて自らの暮らしは、「シンプルライフ」に徹したい、いざ鎌倉のときのわが身の処し方を原点に立ち返ってしっかりきめておこう、いつかはやってくるであろう首都圏を襲う震災に備えてー。

五十一年ぶりの同級会

足立区　上野光雄（住吉町出身）

ほくほく線の車窓から、豊かな稲穂と小型コンバインの動きに、故郷の秋をながめながら、直江津駅に、九月の初旬、五十一年振りに開催された「直江津町立直江津小学校・昭和二十八年卒（六年三組）」は恩師の佐藤義純先生を囲み、三十余名の出席者で賑わった。

八月の始め「皆さんに会いたいね」「義純先生お元気かしら」の楽しい案内に、早速、幹事の内山君に電話。「先生お酒は」の問いに「すごく元気で俺達が負ける位強い」に即座に「行く、よろしく」の一言。

この級は三年生から義純先生を担任として卒業するまで続き、現在二名程の物故者と数名の所在不明者があるものの五十余名が確認され、今回初めて同窓会となった。

会は定刻午後一時より始まる前の一時間、自己紹介や近況を語りあえる時間が設定され「オマン、○○さんでしょう」と語りかける女性軍に比べ、男性陣は思い出せなく、その記憶力に完敗、しかし体つきが完全に変化していても目のあたりに幼い頃の面影があり、会の始まる頃には五十年の時間差は無く、全員、昔の級友のまま、幹事の内山君より今回の経緯を聞き、先生の現在の暮し振りや往時の顛末を聞き、懇親会へ…。

遠く沖縄から駆けつけた茂子さんを始め、各地からの参加者と地元の皆さんとの割合は半々位で、会場のホテル・ハイマートの心づくしに「飲み、食らい、そして、語らい」と実に楽しく、先生より「今度は糸魚川の奥座敷、笹倉温泉でやろう」の声に、大きな楽しみが増えた。

戦後間もない時期での入学、そして卒業と余り楽しかった思い出は少ないもの、教師なりたての先生との交流は以降の学生生活とは比べにならない程、強烈に覚えていて、今では大問題となる「愛の鉄拳」を受けた男子生徒は皆無でなかったのではないか…。

それからの楽しい語らいも、また次回にと約し、散会した。

（昭和28年卒業）　直江津小学校6年3組同級会

平成16年9月4日
於　ホテルハイマート

新たな思い出となった同級会

浦安市　岡村博己（大町一丁目出身）

私が小学校に入学したのは終戦の翌年で、食料事情の非常に悪い時代でした。時々進駐軍の鮭缶などの供給があり舌づつみをしたのを覚えています。こんな共通の思い出を持った南本町小学校昭和二十七年卒業六年一組の二十三人が十月二十二日赤倉温泉に集まりました。五年ぶりのことです。遠く香川、奈良、愛知、石川県からも来てくれました。

宴会、カラオケも終わり再会を十分に堪能した頃、先生はやおら「五十年後に返還する」と約束された私達が描いた先生の肖像画の返還式となりました。五十年後のタイムカプセルを開く時が来たのです。かすかな思い出をたよりに当時を偲んだひと時でした。こんな配慮をされた先生に感謝しております。

ちょうど担任の三浦稔先生が八十才を迎えられたお祝いをかねての集まりになりました。ケーキを用意し、お祝いにデジカメと最新の多機能つきプリンターをお贈りしました。この分野での進歩が著しく、ありがたいことに普通の印刷、古い写真などからの焼き増し、ネガフイルムからの焼き増し、デジカメからの直接プリントなどの機能が備わっています。諦めていたデジタルの世界に挑戦できると大変喜ばれました。近隣の教え子が時々教えに行くことになっています。

翌日はゴンドラで秋のスキー場を高く登り、紅葉を楽しもうとの計画でしたが残念ながら雨降りのため中止、解散です。

五年前に一緒に楽しんだ二人を亡くしてしまいました。何時、誰もが後を追ってもおかしくない年となったことを皆で自覚して、次回は二年後の開催を決めての束の間の楽しい再会の終了です。他のクラスも同級会しているのだろうか。人事ながら気になります。

この十月二十三日は忘れることの出来ない日となりました。

遠方より来た数人ともう一泊を計画し、高田のホテル六階で夕食に出かける時間待ちをしていた五時五十六分、あの大地震を肌で感じました。

上越ぶらり旅

お盆に墓参りで「ふるさと上越」へ行きました。ちょうど「はす祭」と「謙信公祭」の時でした。

謙信公祭は何年ぶりかなので思い立って春日山神社へ行ったのですが、祭りの神事や武者行列には早すぎたので神社の右手の小道から頂上へ行くことにしました。神社の裏手に回ると、そこは別世界のように静かで、今にも謙信公が毘沙門堂を出て降りてくる足音が聞こえるようです。しばらく謙信公の気分にひたったりました。

そうしているうちに、祭りをよそに林泉寺へ寄って、五智の国分寺まで歩きたくなってしまい歩きました。

神社前の石段は確か百三十六段で昔のまま、林泉寺の総門は修復され本堂も立派になって杉の林の中に佇んでいました。

加賀街道は松並木の松は数えるほどしか残っておらず真夏に歩くのは酷でしたが、その分、新しく百％そば粉の蕎麦屋さんを見つけ此処は中々なものでした。他に、能生名立で獲れた活きのいい魚を食べさせる寿司屋さんもありました。

五智の国分寺に着いて目に飛び込んできたのは茶店の「ところてん」、午後の暑い最中で旨いことったらなかったです。すぐ前に芭蕉の句碑があって味わいも一層です。

菜櫚にいずれの花をくさ枕

このあと、直江津海岸へ出たときには陽が落ちて、波打ち際で釣りをしている人がシルエットになり海は映えていました。

今回は急に思い立ってのことでしたが、ぶらりと春日山神社から加賀街道を通って五智国分寺まで行き、そして直江津海岸では日本海に沈む夕日を堪能することができ、実に、ふるさとを感じた一日でした。でも、居多神社へも寄れば良かったと思ったり、そう言えば、しばらく高田公園のお堀を一周していないし、金谷山や愛の風はどうなっているかも気になりました。夜の仲町ばかりに足を運ばないで、次の機会は何処へ足を向けようか

と想いをめぐらせた一日でもありました。皆さんもいかがでしょうか。上越へ行かれたら、一日とはいわなくとも半日でも時間を作って、思い出のある懐かしい場所を訪れたら、きっと、その変わり様も含めて満足されることでしょう。

上越市は来年一月一日に十三町村が加わって広域上越市になります。〝広報じょうえつ〟見どころ紹介によれば、小学生の頃、臨海教室で行った有間川や名立も懐かしいですし、遠足で行った上杉(現・三和村)の風巻神社とか柳池(現・清里村)の坊ヶ池も上越市です。そして、それら懐かしい所ばかりでなく、名立には交通拠点施設「うみてらす名立」できて、三和村には地酒の試飲できる「米と酒の謎蔵」があり、頚城村に「坂口記念館」、板倉町では「光ヶ丘高原」が整備されるなど、各地に新しい施設があり一度は訪れて見たくなります。

上越へ行く途中も見逃せません。「ほくほく線」なら東洋のチロルといわれる大島村や安塚町は茅葺屋根の民家が多く残って山里の風情と棚田の自然を満喫できます。車を使ってなら小諸の懐古園に寄るとか、上越市と姉妹都市の上田で真田城を見て長野の善光寺にお参りをして、小布施町では「北斎」を見て野尻湖を回って上越へ入るのなど観光メニューは盛り沢山です。

新しい上越の発見と、寄り道する上越へのぶらり旅は、故郷を持つ幸せを感じさせてくれることでしょう。

辰

多羅葉（たらよう）

多摩市　和久井博（幸町出身）

「多羅葉」と聞いて何のことかすぐにわかる人はかなりの教養人ですね。

かなり前になりますが、Jネットの大田会長の事務所で、見せていただいた高級クラブのコースターに「多羅葉」と店の名前が印刷されていました。会長のネーミングによるそのお店はその後ママさんが結婚されて、今は営業していないとのことですが、恥ずかしながら、私はそのときに初めて多羅葉という名前を知りました。

日本の近代郵便制度の創設者、前島密翁が郵便制度調査のため渡英したのは一八七〇年（明治三年）だから、今から百三十年以上も前のことですね。そういえば先日、高田高校の創立百三十周年記念式典がありましたから、同じ頃なのですね。

この多羅葉という名前の樹は上越市の池部にある前島密記念館の前に植えられています。

榊原神社の向かいにある高田郵便局にもありますし、東京駅の丸の内にある東京中央局にも植えられています。

そうです。多羅葉は「郵便局の木」なのです。平成九年四月に当時の郵政省により多羅葉は「郵便の木」に指定されました。

この多羅葉の葉は椿の葉を大きくした様な形をしており、葉の裏を細い棒でひっかくと変色して浮き上がり、文字を書くことが出来るのです。そのため、「葉書の木」ともいわれています。多羅葉の葉に文字を書くことは我が国では、今から五百年ほど前の戦国時代に武士が便りに利用したとも言われています。また、そのとき、乾燥を防ぐため竹筒に水と一緒に封じ込み運んだようです。「葉書」や「封筒」の語源もここから来たものかも知れませんね。

ハガキの語源は、昔は一枚の紙に書かれた命令書などを「端書」と呼んでいたものがハガキになったという説もありますが…。

紙以前の書写材料をみると、チグリス・ユーフラテス川で起こったメソポタミア文明は粘土板に楔形文字を使っています。

ナイル川のエジプト文明は石材、パピルスを使い象形文字を書いています。パピルスと呼ばれる葦に似た植物は今日の紙に最も近いことから、Paperの語源にもなっています。

インダス川のインダス文明は石材でインダス文字を使っていますし、黄河の黄河文明は甲骨、竹簡、木簡に甲骨文字を書いています。

色々な文化や背景が感じられて面白いですね。

木の葉が使われていたのは、古代インドで写経をする際に使っていた貝多羅葉（ばいたらよう＝梵語）というヤシ科のオウギヤシで、その掌状の葉の裏に竹筆や鉄筆で経文を書いていました。

多羅葉はモチノキ科の常緑樹ですが貝

高田郵便局の多羅葉の樹

多羅葉の説明

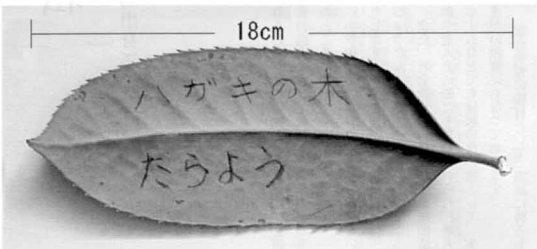
多羅葉と同様にその葉に傷痕を付けると黒変して文字が書けるので、わが国では貝多羅葉になぞらえて「多羅葉」と名付けられました。

この多羅葉はモンツバキシバ、ノコギリシバが本来の名前ですが、俗に、「ジカキシバ」「エカキシバ」「ハガキの木」とも呼ばれています。

多羅葉の葉は長さ十八センチ、幅八センチ程度ですが、この葉に宛名と便りを書いて切手を貼り、ポストへ入れると現在でも郵便物として扱ってもらえます。

多羅葉樹は十一月になると直系八ミリ程の赤色の実が熟しますが、大好物の鳥達に冬の間にほとんど食べつくされてしまいます。多羅葉の樹皮からは鳥モチがとれますし、葉は健康茶として腎臓病予防に良いと愛飲されている方もおられるようです。

多羅葉の葉



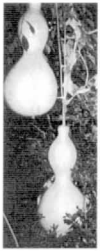
http://www.tcp-ip.or.jp/~jswc3242/mame57hagakinoki.html

東京中央局（丸の内）の多羅葉の樹

趣味拝見

ひょうたんと私

野田市　澤　カツ子（諏訪村東中島出身）



若い時から色々な稽古事をしてきたが、子育ての中のPTA活動で出会ったことが続いています。

グランドホッケーで毎年全国大会に出場したり、元ワールドリーグ出場者や各国商社マンと神戸三ノ宮の外人クラブ・グラウンドで交流会をしました。その監督が、学有林で生徒に瓢箪を作らせ、卒業記念に贈られた校長でした。

子供の成長と共に上京し、東京四ツ谷で生活をしておりましたが、平成二年仕事の為、野田市に移り住み野菜と一緒に瓢箪を植えたところに関西の方から、関東での愛瓢会の会員増強の協力依頼がありました。私の趣味というより、会運営の協力をさせて戴いたというのが本当のところです。

小学四年生の教科書でつるの勉強をいたします。私たちの時はへちまでしたが、ひょうたんで勉強するところもあります。

また、社会教育の題材として公民館活動や老人会活動にも取り入れられ、老人ホームなどでも縁起の良い物として、生きがい教育にもなっております。

「総合教育の題材として、瓢箪に勝るものはない。一生、関っていきたい。」と申された秋篠宮様、今年名誉顧問から正式に名誉総裁としてご就任いただき、大会でお言葉を戴きましたことは、テレビでも放映された通りでございます。

地球上に現れたのは稲よりも古く、福井、富山、滋賀などから約一万年前の瓢箪が出土しております。この瓢箪を来年の福井の大会で展覧できればと交渉中です。

大会では素瓢と加工部門があり、総理大臣賞以下各賞、来年からは名誉総裁賞も創ろうと、宮内庁と打ち合わせさせて戴いて居るとの事でございます。

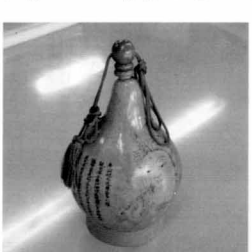
その他、瓢道位制を設け、技術の向上を図っております。研究部では、外国の瓢との交配も試みております。海外愛好家との交流も図られ、先日も中国への訪問を終わったところです。内閣府のNPOの認証を受け一般からの応募も受付いたします。

全国の各名人の作品は素晴らしく、「高齢になったので、もう作れなくなったが限られた数の昔の作品を送るので、持っていて欲しい。」と、この頃理事会にもお出かけにならなくなられた兵庫の支部長をなさった方に、観音様と般若心経を五ミリ大の字を筆で書いた瓢を先日いただきました。

五年前に戴いたのを、恵信尼の廟にお参りした後でしたので、作者の了解を得て板倉役場を通じてお寺に収めさせて戴きました。

その事も覚えておられ、今回のは私のお傍で大切に置かせていただきますとお約束しておられました。

その他の方からも沢山戴いておりますが、お預かりしたつもりで、その方の技術をつないで参りたいと存じます。



趣味拝見

野生スミレの探求

浦安市　岡村博己（大町一丁目出身）

久しぶりに野生のスミレと出合ったのは、今から三十年程前のことでした。場所は雪の消えた六月始めの苗場スキー場でした。実に懐かしく郷愁を感じました。いけない事とは知りながら私が子孫繁栄の手助けをしてやろうと、一株頂いて来ました。その子孫が私の庭で元気にしております。以来取り憑かれた私は園芸種を買い求めたり、行く先々で新種はないかと下を向いて歩いています。嬉しいことに下を向いて歩くと家の周りでも、時々一人で咲いているのに出くわします。このあいだは「姫スミレ」（五～七ミリほどの小さな濃い紫の花）の群生に出会いました。この時の感激は大変なものです。

こんな訳で小さな仕立て鉢を含めると約三百、三十種が私の支配下にあります。そのうち自然交配して新種が出来ないかなーと期待しながら、せっせと水遣りをしております。あるいはどこかで新種に出くわして、名づけ親になりたいとも思っています。

近い将来「Jネット・おかむらスミレ」が図鑑に載ることを信じて頑張っています。

お宝拝見

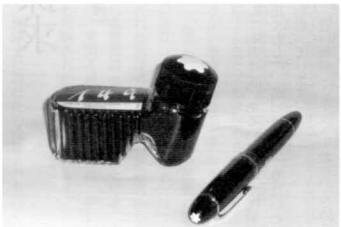
皆さんの趣味、道楽あるいはお持ちのお宝に関する寄稿をお寄せください。

会員の皆様の趣味や自慢のお宝に関する寄稿をお寄せください。また、新たな交流が始まるかも知れません。

ジャンルは特に限定しません。スポーツや絵画、陶芸あるいはペット、切手やカメラの収集など何でも結構です。

掲載は毎月の『便り』及び『会報』です。

文章は八百字程度に写真を添付してください。



楽しい農業体験

棚田オーナーに参加して

東京農業大学助手　松田恭子

東京農業大学で農産物流通や経営について勉強している松田です。昨年「Jネット会員による楽しい農業体験」に飛び入り参加させていただいたご縁で、今年は棚田オーナーに挑戦しました。

上越市の棚田オーナー制度は一アール（一〇〇㎡）当たり年間会費三万円。最低年三回作業（田植え・草取り・稲刈り）をすることが条件となっています。それ以外の苗作り、田おこし、代掻き、脱穀・精米は自由参加です。運営主体はNPO法人　かみえちご山里ファン倶楽部ですが、作業当日は農林水産課の方々も応援に駆けつけ、イベントを盛り立てて下さっています。

五月中旬、小雨の中、田おこしがありました。用事のついでに行くと、そこにはフレッシュな牛糞が！それをスコップで田に運んでまき、土とよく混ぜます。フレッシュな牛糞は意外に臭くなかったのですが、土と牛糞を混ぜるのが重労働でした。スコップでまくにも重くて、こんなに堆肥が固まって入ってしまって大丈夫なんだろうか？と、自分の作業ぶりに大きな不安が。

その一週間後、田植えがありました。昔ながらの三角柱状の道具で田んぼの表面に目印の筋をつけた後、苗の束から三、四本をほぐしてキュッと田の目印に等間隔に差し込みます。田んぼの中で慣れない長靴を履き、苗の束も背負わないで手に持てるだけ持って無くなると畦に一々取りに行くという要領の悪さ（私だけです）でした。それでも田植えは何故か楽しく、稲刈りよりも楽しかった位です。泥遊びは良い気分転換になるのかも知れないですね。NPOの活動拠点である菅沼きの「ゆったりの家」で、笹に包まれたおむすびと汁物をいただきました。腹に沁みる美味しさですね。

草取りは体調を崩しドタキャンしてしまいましたが、九月末の稲刈りは暑くもなく寒くもなく気持ちの良い天候でした。去年より作業量は多かったような気はしますが、無事終了しました。ただし、稲を藁で束ねるのが難しい。これはっかりはなかなか上手くならないようです。

この原稿を書いているのはもう十一月。今日は梅干のおむすびを作ってお台場に行って外で食べました。おむすびを噛みしめると茶碗で食べるより一層美味しくいただけました。

一年を通して、他のオーナーの方とも顔見知りになり、楽しくお話をお伺いしました。また、蚕をわけていただき、そこから新しい興味がどんどん湧いてきました。「全国の天気」で明日の天気を見るところが一つ増えました。この感覚がオーナー制度の楽しさなのでしょうね。

また来年、機会がありましたら参加させていただけると幸いです。来年は、他のオーナーや地元の方々とより一層交流を深めることができれば思います。また、合併後は、安塚町、大島村、吉川町など、既に棚田オーナー制度に取り組まれている町村も上越市となります。安塚町は米の雪中保存をし、大島村では口コミでオーナーを募集し、吉川町では共同作業なので一人でも参加可能としているなど、どれも個性的な取り組みをしているようです。周辺の新井市、松代町、松之山町でも取り組みが進んでいるようです。それぞれの個性を活かしながら広域的にも交流が深められるような一層楽しい取り組みを楽しみにしています。どうぞ今後もよろしくお願い申し上げます。

金谷山さくら回廊

金谷山桜千本の会会員　金井建一

「ふるさとは遠きにありて思ふもの」

このフレーズは、大正七年に上梓された室生犀星の名詩集、「抒情小曲集」の序詩の一行である。犀星の古里は金沢だが、彼が遠きにありて古里を思ふとき、心底にいつも犀川がよみがえって来たという。

上越の出身者が、遠きにありて古里を思ふとき、その犀川にあたるのが、高田城址の桜ではなかろうか。残雪の中の桜並木、その根幹にみえる厳冬のなごり、春を孕んだような薄紅のつぼみ、夜の闇に音もなく散っていく桜吹雪、そして葉桜というように、いつまでも桜へと思いは流れてゆく。

一昨年の秋だったか、高田図書館の入口で偶然、高校時代の同級生の石黒さんに出会った。久しぶりの再会だというのに、いきなり桜の話ではないか。それもとになる。

「金谷山さくら千本の会」を立ち上げたメンバーは四人である。石黒さんがそのおひとりであることも、会員百数十名にも拡大した会の事務局を担っておられることも知ったのは、しばらく後のことだった。

金谷山の一角を桜の山に変えたいなどという、夢想だにしなかった話だ。呆気にとられた私の脳裏に、あの異彩、佐藤良二氏がすべりこんできた。

この名は十余年まえの新聞で知った。公共広告機構による特大の広告が、氏の業績を詩のかたちで伝えていた。業績とは、独力で挑んだ桜街道づくりのことである。富山湾に注ぐ庄川から、伊勢湾に流れ込んでいる長良川の下流までの二百六十キロの沿道に、桜街道をつくろうとしたのだ。氏は国鉄バスの車掌だった。その氏がある日、卒然と想い定めたのがこの遠大な計画だったのだ。少ない休暇と私財を投じて、独力で二千本近くの桜木を植えた氏は、突然、病に倒れた。四十七歳の生涯だった。国鉄の民営化は昭和六十二年のことだから、それより前のこ

金谷山のレルヒの丘を山側へ下ると、整備された広場があって、いつも親子連れで賑わっている。その東側斜面右手のボブスレー場と、左手のベルリン坂に挟まれた二・五ヘクタールが桜の植樹場所である。ここは市有地ではない。けれど、桜の植樹構想をもちかけた会に、地権者の方々は、即応のかたちで賛同してくださったと聞く。まさにやわらかな越後びとである。

植樹地は、コナラやマンサクが目立つ雑木林で、自生のウワズミ桜も混ざってはいるが荒れ放題の様相を呈していて、果たしてこんなところに桜木が活着するのか不安であった。これも後で知ったことだが、会の中心になっておられる相澤(紀)さんは、数少ない樹木医ではないか。私の不安など最初から杞憂であったのだ。

相澤さんが選ばれたのは、山桜であった。山桜は微紅色の五弁花である。水上勉の名作「桜守」のモデルとなった桜研究の泰斗、笹部新太郎氏は、桜の九割を占める染井を「あれは花ばっかりで気品にかけますわ」と嫌った。

相澤さんが、なぜ山桜を選ばれたかについては、直接伺ったことはないが、植樹されたばかりの山桜を見る度に「桜守」の世界が心底をかすめていく。山桜は開花時期が遅い。城址が桜吹雪につつまれる頃、金谷のさくら回廊が、ようやく色づき始めることになる。

この蠱惑的な時間差がうれしい。

平成十四年十月の、わずか十本の山桜

の植え込みから出発した植樹は、平成十六年の第三回植樹で都合、ヤマザクラ六十本、オオヤマザクラ八十本にもなった。カスミザクラやエドヒガンザクラもそれぞれ十本植えられたが、こちらの桜は、どんな花を見せてくれるのか。

相澤さんは、ここを「さくら回廊」となづけられたが、樹木医の目には、すでにその回廊の正確な姿が見えているのだろう。

桜以外にも、ブナの木や、真紅の紅葉木となるメグスリノキも混植されたが、これらの木々も回廊にいろどりを添えることになる。

会の定例作業活動は月一回、毎回ほぼ二十人前後の参加者だが、作業の大半は植樹ではなく、植樹まえの整備作業の方に費やされることが多い。まさに大変な植樹地で、まだ植樹が始まったばかりだというのに、すでに補植の必要となった箇所も多い。第二回の植樹地となった急坂などもそのひとつだが、やがては急坂にかしぐ桜木から、清冽な花吹雪が漂い始めることになる。

さくら回廊の来し方はどこなのか。

御母衣ダムの湖底に沈むはずだった、樹齢四百年もの巨桜、その移植を成功させた桜守の偉人、笹部氏。そのあり方に触発され出立した佐藤氏の、途方もない桜街道づくり。金谷山のさくら回廊もまた、かの地からの飛び火に違いない。そしていずれの日にか、この回廊も次代に受け継がれ、おそらくは延長の運命をたどるのではあるまいか。

九月の末、急坂の一本が季節外れの花をつけていると聞いた。行ってみると、黄昏の淡い光の中に、まだわずかばかり、花が散り残っていた。十歩ほど下ったミゾソバの群生した斜面で見上げていると、足元に澄んだ水音がした。表出した伏流水が、三十センチほどの窪み状の段差を滴り、細流となっている音だった。

帰路、レルヒの丘でさくら回廊を遠望してみた。そこの高台から眺めたのは初めてだった。回廊はすぐに目に入ってきた。広場を挟んだ真向かいの山の目の高さの斜面の一角、そこがさくら回廊だった。雑木が切り払われているそこだけが、斜陽を受けてかすかに明るんでいたのだ。まるで落陽をはじいて、淡くひかる山上湖のように見えた。

大手町小学校とのふるさと交流

十月十三日から十五日、大手町小学校六年生の生徒五十八名は宿泊体験学習（修学旅行）に東京へ来ました。

今の修学旅行は文字通り修学で、学習テーマは上越市が広域合併するのに合わせて「合併問題に関して」東京都東東京市と千葉県成田市の市役所を訪れて合併についての話を聞いたり、国会議事堂の見学を兼ねて総務省から見た合併の話を聞くことでした。生徒たち皆春から十四市町村へ独自で行ったり、それぞれの良いところを調べたりして、細かくみると十八ものテーマを持っていると小山・横尾両先生が話してくださいました。

十四日は港区の「アジュール竹芝」のレストラン・ベイサイドで、「総合的学習」の一環として上越市ゆかりのJネット会員と交流を深めながら、外から見た合併のことや上越の将来に期待していることなどを話し合う交流会をしました。交流会にはJネットから大手町小学校の卒業生二人を含めて六名参加しました。六人別々のテーブルについて食事をしながらでしたが、生徒たちが企画から司会・進行までを手ぎわ良く進めて、今どきの子供たちの闊達さを頼もしく感じました。

Jネットの会員はそれぞれ話したのですが、大手小の昔ばなしには興味津々で質問が出るほどでした。そして、上越市の名称についても生まれたときから馴染んで、私たちがとやかく言うことでないようです。また、私たちが三十～五十年前を振り返って上越の変わり様を子供たちに聞かせたのですが、君たちも二十～三十年たったら同じように思うだろうし、その時、君たちの故郷なのだから、その時のために、今から良い町づくりをして欲しいと期待して、ボーイズ・ビー・アンビシャスの言葉を送って会場をあとにしました。

十五日は東京ディズニーランドでした。勉強のことを忘れ楽しんで上越へ帰ったことでしょう。

交流会の中で、生徒によるアトラクションに上越市に関連するクイズ大会がありました。

皆さんも挑戦してみませんか。正解は最終ページをご覧ください。

生徒の感想文

上越ふるさとネットワークのみなさんと交流会をして

大手町小学校六年一組　杉山緑さん

十月十四日に、上越ふるさとネットワークのみなさんと交流会をしました。私は、交流会の司会をしたり、プログラムを考えたりする係で、大手町小学校を紹介するプレゼンテーションや、上越に関するクイズ大会などを予定し、準備をしてきました。

当日、六名の上越出身の方がいらっしゃいました。私が担当したテーブルには、大滝さんという方がいらっしゃいま

した。話を聞くと、大手町小学校の近くに住んでいらっしゃったそうです。だから、大手町小学校のグラウンドで昔遊んでいたことや、思い出などを話してくださいました。上越のことをとても懐かしそうに話してくれ、私たちも上越や大手町小学校のことをいっぱい話し、紹介しました。

クイズ大会では、上越の方言などの問題も出しました。上越出身の方なので、みなさん簡単に問題を解いてしまいました。

交流会で、上越ふるさとネットワークのみなさんは、上越のことを思い出し、なつかしく感じてくださったと思います。私も、上越の話しを聞き、上越はいいところだとあらためて思いました。

ふるさとネットワーク交流会の感想

大手町小学校六年二組　内田諒英さん

十月十四日に東京の竹芝で上越ふるさとネットワークの六人の皆さんと食事会をしました。ぼくのテーブルには、大滝さんという方がいらっしゃいました。なんと大手町小学校の卒業生でした。ぼくたちの先ぱいなので、とても話がはずみました。ぼくが今の大手町小学校の行事や上越市の祭りなどのことを話すと、大滝さんは、なつかしそうに、昔の大手町小学校の思い出を話してくださいました。

大滝さんは、たまに上越市にいらっしゃっているようで、大手町小学校のとなりにある一ノ橋がこわされて新しい橋が造られることも知っていました。大滝さんは、このことについて

「思い出の橋がなくなるのは、とてもさびしい。」と残念そうにおっしゃっていました。ぼくは、大滝さんやほかのふるさとネットワークのみなさんが、上越のことを本当に愛してくださっているんだなと思いました。ぼくが、大人になって上越をはなれてもふるさと上越のことを忘れずに、大切にしたいと思いました。

上越に関するクイズ

第一問

上越のマンホールは2つありますが、一つは四匹の魚が泳いでいるがら で、もう一つには高田城の外堀に咲く蓮の花とそこに泳ぐ二匹の鳥がデザインされています。その鳥とは何で、どんな風にかかれているでしょう。

①手前に白鳥で後ろに黒鳥。
②手前に黒鳥で後ろに白鳥。
③どちらも白鳥

第二問

上越市の郷土料理で代表的なものは次のうちどれでしょうか。

①押しずし
②紅白なます
③のっぺ

第三問

今、極楽橋が再現されました。その極楽橋は何の木でできているでしょうか。

①ヒバ
②杉
③桜

第四問

上越の方言の「こけ」とはどういう意味でしょうか。

第五問

スキーを伝えたレルヒ少佐。そのレルヒ少佐の本名とは?

①レルヒ・フォン・テオドール
②テオドール・フォン・レルヒ
③アンドリュウス・フォン・レルヒ
④フォン・アルファンドーレ・レルヒ
⑤コンドーヌ・カルバッチョ・レルヒ・フォー

第六問

高田公園には、明治四十二年に二、二〇〇本の桜の木が植えられました。現在、何本の桜の木が植えてあるでしょう。

正解は最終ページをご覧ください。

ふるさとニュース

十月二十三日午後五時五十六分に川口町を震源とする震度七の大地震が発生しました。川口町を始め小千谷市、山古志村、十日町市、長岡市など多くの中越地方の市町村に大被害を与えております。全国からのボランティアがお手伝いをしていますが、震度六、震度五以上の余震が続き、復興の妨げとなっています。住民の不安は解消されておりません。

一日も早く余震がおさまり、降雪の前に復興の目処が付くことを願うばかりです。

なお、被災地への義援金は、各銀行、郵便局などで受け付けております。

ご協力お願い申し上げます。

写真は上越市の職員の方が応援に行かれた時のものです。

写真提供：上越タイムス

Jネット活動計画

○観桜会

四月九日（土）に花見会場へ三十五人がそれぞれ直接集合。上越市の職員の方が朝早くから場所を確保してくれ、木浦市長をはじめ、上越の方も一緒になって満開のお花見を楽しみました。その後、市のバスで「湯ったり村」へ行き宿泊、翌日は北陸新幹線桑取トンネル工事現場を見学しました。

○Jネット理事会・総会

五月二十二日（土）市ヶ谷の私学会館（アルカディア市ヶ谷）で理事会・総会が開かれました。総会には八十人の会員が出席し、上越市の史家の花ヶ前盛明さんの「上杉謙信公」のお話を聞きました。

○農業体験／田植え

五月二十三日（日）今回は会員の参加がなく、市職員で植えました。

○会報（十七号）の発行

七月十五日発行。

○名古屋サロン

九月四日（土）に名古屋駅ビルにあるホテルアソシアのレストランで開催されました。三十三人の方が参加され、楽しい時間を過ごしました。バイキング形式で飲み放題食べ放題で満足でした。

○農業体験／稲刈り

九月二十五日（土）～九月二十六日（日）に四人が参加し、湯ったり村へ宿泊して稲刈りをしました。Jネットの棚田の稲は最高の出来でした。（※）天日干しのおいしいお米が月末に届きました。

人数に限りがありますが、来年はあなたも是非参加されませんか。

※一アール当り四十三kgの収穫（玄米）

○大手町小学校とのふるさと交流

十月十四日（木）

◆今後の予定

・会報（十八号）の発行

十一月末にお届けする予定です。

・二〇〇五年カレンダー

Jネット柴田理事制作のオリジナルカレンダーをお届けします。

・大阪サロン開催

平成十六年十二月四日（土）正午から大阪弥生会館（大阪駅から歩いて五分）でサロンが開催されます。会費は四、〇〇〇円（当日会場にて）です。参加希望者は本庁事務局まで。

・理事会・文化講演会

一月二十二日（土）に理事会及び文化講演会が開催されます。詳しくは「たより」をご覧ください。

ふるさとの
美味しいお米を食卓へ

上越産
こしひかり

JAえちご上越 あぐりフーズ 農産加工課

〒942-0061 新潟県上越市春日新田5-3-11
0120-81-1093 フリーダイヤルファックス 0120-17-1093

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員です。

★特別賛助会員とＪネットはお互いに協力しながら良い街づくりをめざします。

★Ｊネットでは会の運営に協力していただける特別賛助会員を募集しております。

★皆様のご存知の企業・団体等で賛助会員をお願いできるようなところがありましたら是非ご紹介ください。

あの頃に帰る…
風も、匂いも懐かしい
山里の原風景
日本の本当の田舎がここにある

ブナの森に抱かれた、静寂の温泉・宿泊エリア
くわどり湯ったり村
上越市皆口601
tel. 025-541-2611 fax. 025-541-2616

ふるさとの心、ぬくもり。
いっぺごと味わってくんない。

笹寿司
押し寿司
上越産コシヒカリ
100%「恵みっ子」
■無農薬・無化学肥料栽培米
■減農薬・無化学肥料栽培米
■減農薬・減化学肥料栽培米
■慣行栽培米
■無農薬・無化学肥料栽培
紫黒米(もち米)
■減農薬・無化学肥料栽培
こがねもち(もち米)
■減農薬・無化学肥料栽培
低タンパク米(春陽)
草もち・豆もち
シソもち・大福
うぐいすもち
桜もち(紫黒米)
笹もち・笹だんご
あんころもち
焼もちおやき
栗おこわ・五目おこわ
はすおこわ・赤飯
山菜おこわ

みょうがシソ酢漬け
みょうが粕漬け
みょうが佃煮
きゃらぶき・ふき菓子
たくあん
(糠漬け・粕漬け・酢漬け)
梅干し
キムチ
(イカキムチ・白菜キムチ)
山菜
(筍・ぜんまい・ウド・こごみ
たらの芽・ふきのとう・あざみ)
自然芋・栗・いちぢく
かぼちゃ
なますかぼちゃ
さわし柿・干し柿
ずいき・かんぴょう
こんにゃく
その野菜などなど
ブルーベリー
アイスクリーム
(ブルーベリー・栗えごま・いちぢく)
あぜみち醤油
(上越産大豆100%)

特産品と体験工房施設 正善寺工房
NPO法人食の工房ネットワーク
上越市下正善寺1027番地2
かけてくんないや。待ってんでね。
TEL・FAX 025-523-0621

創業明治23年
伝統の味
岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 **岩の原葡萄園**

TEL.**025-528-4002** 新潟県上越市北方1223番地
URL http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/

日本の本格ワイン発祥の地『岩の原葡萄園』は、明治23年の創業以来、3世紀にわたって高品質のワインを世に送り出してまいりました。
お蔭様で上越市の代表的な特産品として、多くの方にご愛飲いただいております。
さて、弊社では、遠方にお住まいでお近くに岩の原ワイン取扱店がない方に向けて、『岩の原ワイン みゆき会』の会員を募集いたしております。
ワイン10,500円以上のご注文で送料無料、ご入会プレゼントや、お買上げのポイントによるプレゼントなど、色々と特典がございますので、ぜひ会員の皆様も是非ご利用下さい。
お問合せ 株式会社岩の原葡萄園 025-528-4002

地元に密着した総合タウン誌

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 ジャックランド

320円

毎月25日発売

定期購読承ります

新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail j-4275@lily.ocn.ne.jp

環境との調和で新たな価値を

FUKUDA CORPORATION

株式会社 **福田組**

代表取締役副社長
営業本部長 田村春男

東京本社
〒162-8411 東京都新宿区市谷本村町3-26
TEL 03-3269-4711 FAX 03-5261-5387

○上越の催し物

ふるさとの行事に、参加しませんか。

■レルヒ祭(1月29日～2月6日)

平成17年1月29日(土)～2月6日(日)までがレルヒ週間で、この間色々の催しが計画されています。
2月5日(土)に前夜祭、6日(日)は金谷山で各種イベントが計画されています。

○屋台村in本町　○冬の味覚を味わう会　○たいまつ滑降　○どんど焼き
○花火大会　○屋台出店　○一本杖スキー　○モーグル大会

■観桜会(4月2日～4月17日)

○今年も現地集合でJネットのお花見をいたしましょう。

■上越まつり・祇園祭(7月下旬)

○花火大会　○大民踊流し　○神輿の川下り　○お餞米奉納

■義の塩作り(7月下旬～8月上旬)

○子供参加の塩作り大会

■はす祭り(8月上旬)

○蓮の花鑑賞会

■謙信公祭(8月中旬)

○義の塩献上　○出陣行列　○武てい式　○大民踊輪おどり

○上越市の施設

上越市の施設を割引で利用できます。利用の際には会員証を提示してください。

名　称	住　所	電話番号	料　金 一　般
リージョンプラザ上越 （アイスアリーナ貸し靴除く）	上越市下門前446-2	025-544-2122	レジャープール
			400円(200円)
			アイスアリーナ
			800円(400円)
市民プール	上越市下門前446-2	025-544-2122	300円(150円)
上越科学館	上越市下門前446-2	025-544-2122	400円(200円)
水族博物館（サイクルモノレール含む）	上越市西本4-19-27	025-543-2449	通常料金
			900円(450円)
			イルカショー
			1,200円(750円)
オールシーズンプール	上越市新光1-9-1	025-524-3130	300円(150円)
五智公園キャンプ場（バンガロー使用料）	上越市五智6-1569	025-543-5948	バンガロー使用料
			6人用 3,500円 (1,750円)
総合博物館（特別展除く）	上越市本城7-7	025-524-3120	300円(150円)
高田城三重櫓	上越市本城6-1	025-526-5915	200円(100円)
日本スキー発祥記念館	上越市大貫1453-1	025-523-3766	300円(150円)
金谷山スキーリフト・スーパーボブスレー	上越市大貫595-2	025-525-4295	リフト・ボブスレー
			1回につき各100円(50円)
海洋フィッシングセンター（えさ代除く）	上越市虫生岩戸	025-544-2475	100円(50円)
交通公園ゴーカート	上越市五智6-1569	025-543-5948	ゴーカート
			1人用100円(50円)
市民いこいの家	上越市石橋1-1-3	025-545-5270	250円(125円)
市民プラザ	上越市土橋1914-3	025-527-3611	施設により料金が異なります
小林古径邸	上越市本城7-1	025-525-2429	200円(100円)
上越リゾートセンターくるみ家旅園	上越市東中島2487	025-544-7440	400円(200円)
春日山城跡物語館	上越市大豆335	025-544-3728	無料
旧師団長官舎	上越市大町2-3-30	025-526-5908	無料
上越市埋蔵文化財センター	上越市春日山1-2-6	025-521-6280	無料

＊(　)内は会員の割引き料金です。

編集後記

重なる台風の上陸、新潟を襲った大洪水。全国的な熊の出現、更に中越地方の大地震。自然を大切にして来なかったからでしょうか。ただ一日も早い復興を願うばかりです。
今回もたくさんの方々のご協力を得て、9年目18号の発行を迎えることが出来ました。ご協力頂いた皆さんに厚くお礼申し上げます。また行き届かない点が多々あると思いますが、ご容赦の程お願い致します。来春には大上越市が誕生いたします。Jネットはどう対応すればよいのでしょうか。この会報も様相を変えてゆくことでしょう。
皆さんのお知恵をお貸しください。
日に日に寒さが増します、皆様ご自愛の程を。

Jネット運営委員　岡村博己

クイズの答え　第一問:①　第二問:③　第三問:①　第四問:きのこ　第五問:②　第六問:3400本

●発行
ふるさと上越ネットワーク事務局（上越市企画部 企画課内）
〒943-8601
新潟県上越市木田1-1-3
TEL.025-526-5111 FAX.025-526-8363
E-mail: j-net@ml.city.joetsu.niigata.jp

運営委員会事務局
〒150-0011
東京都渋谷区東1-26-30 渋谷イーストビル
(株)社会システム研究所内
TEL.03-3499-8299 FAX.03-3486-0986
URL http://www.joetsu.gr.jp/

【情報をお待ちしています】 TEL.025-526-5111(Jネット事務局)